

From The Alumni Association

同窓会だより

福岡歯科大学佐賀県同窓会学術講演会



古野会長の挨拶

佐賀県同窓会は昭和55年に発足し、本年30周年を迎えました。

現在は4代目会長の古野宏先生(5期)を中心に88名の同窓生で活動しております。

佐賀県は県歯科医師会会長に寺尾隆治先生(1期)、常務理事に松尾憲篤先生(3期)、寺尾弘隆先生(4期)、理事に重松秀樹先生(7期)が就任されており、また多くの同窓生が地区の会長、理事等の要職に就いておられるなど、我々同窓生が佐賀県の地域歯科医療の中心的存

在といっても過言ではありません。

平成21年度の佐賀県同窓会学術講演会は、1月23日佐賀市のホテルニューオータニ佐賀にて、本学育成小児歯科学分野 本川渉教授を講師として行われました。本川教授には3月に定年をお迎えになられる大変ご多忙な時期にもかかわらず、快く講師をお引き受けいただきました。

講演では、大学の現況の説明からはじまり、本学小児歯科発足当初のいわゆる「虫歯の洪水」の時期や予約2年待ちの時期、母親教室の重要性などの話から、最新の咬合誘導の技術、予防の重要性の話、国内外の大学との交流、現在の小児歯科医療の問題点などを多くのスライドを使ってお話いただき、長年小児歯科の発展にたずさわった本川教授の集大成ともいえるご講演でした。

先生には佐賀県人会の顧問としても長年お世話していただいており、今回はご退職前の最後の講演とあって多くの同窓生が出席し、先生

の貴重な講演を聴講しておられました。

最後になりましたが、本川教授には長年にわたり佐賀県同窓会、ならびに佐賀県人会のために多大なるご尽力いただきましてまことにありがとうございます。この場をお借りして深く感謝申し上げます。これからの本川教授のご健康とご多幸をお祈り致します。

本年10月九地連同窓会を佐賀県嬉野温泉にて行います。多くの同窓生のみなさんのご来県をお待ち致しております。

酒井正男(14期)



本川教授の挨拶

同窓会通信 「学内同窓会は今」

現在(平成22年3月1日時点)学内同窓生は、大学の教授1名、大学准教授3名、講師12名、助教38名、短大の教授3名、准教授3名が教員として学生の指導に当たっています。その他、医員や大学院生、専攻生および研修歯科医師を含めると、総勢で180名以上となります。それぞれの同窓生が各専門分野で後輩の指導や自身の研修に励んでいます。私が、前会長より学内同窓会長を受け継いで4年になります。その間、歯科界は激変しました。大学においても浮足立つ者が多く、腰を据えて勉強していこうとする者が減少しています。しかし、このような時代にこそ、将来に生き残るための歯科医学や口腔医学に関するしっかりとした考え方や深い知識が必要と考えています。本学では、昨年度より口腔保健学の埴岡教授を中心とした学生支援プログラムが始まりました。これは、本学の学生さんに、一般の歯科診療所や口腔医学を実践している病院を臨地体験させ、将来に対する高いモチベーションを持たせようという試みです。このプログラムには、同

窓会の先生方に全面的な協力をお願いしています。昨日、臨床実習生を引率して2つの施設を訪問しました。両施設ともに、院長のお人柄がにじみ出た素晴らしい診療所でした。この施設の先生は、お二人とも大学で10年近く研修を積み学位をお持ちの先生で、診療所のポリシーや地域医療への貢献に対する高いモチベーションには驚かされました。学生さんには、大学病院では見ることのできない生の診療所の姿を見せる機会を与えることが出来ましたし、将来の目標を高くもたせることもできました。6年間の学生生活は、卒業と国家試験合格に多くのエネルギーが使われますが、卒業後は、歯科医師としての将来を決める大事な時期です。ご父兄の皆さんにはご子息の将来のためにも、ぜひ、大学院への進学や専門性の高い講座や分野への進路をお勧めします。

学内同窓会長 尾崎正雄(3期)

卒業生トーク 「行くに徑に由らず」 寺谷 烈(18期)



若葉の候、学部には新1年生が、病院には研修医が、それぞれの第一歩を歩んでいる頃だと思います。おめでとうございます。

皆様、こんにちは。平成8年卒業の寺谷と申します。私は昨年、学生時代も含めて18年間お世話になった母校を退職し、勤務医として約1年経ちました。今までの人生の半分は、福岡歯科大学が占めています。

私は、学生時代にサッカー部に所属し、グラウンドでチームワークの大切さと勝負の厳しさを学びました。卒業後、福岡歯科大学歯科矯正学講座(現 成長発達歯学講座矯正歯科学分野)に入局し、石川博之教授のご指導のもと、大学院、医員、助手、(助教)として臨床、教育、研究に携わらせてもらいました。大学院時代は、伊東隆三元助教、伊藤秀美元准教授(東北大学)、石川博之教授のご指導により、矯正装置を用いて生体内に発生する力学的挙動をバイオメカニクス観点から観察、評価する生体力学研究をさせていただきました。この研究から矯正歯科学に興味を持ち一つの道が続けていくことを決意しました。職員と

なり、歯学生の教育、後輩先生の育成指導やサッカー部のコーチなど、人様に物事を教える難しさを痛感しました。また、数回の学会運営、同窓会、同門会、OB会、県人会、グリークラブなどの人と人とのつながりが重要になる仕事も経験し、成功に終わった時の喜びも感じることができました。それらの一つ一つが財産とっております。そして、ふと先日、大学勤務時代の患者様からメールをいただきました。『先生、元気?矯正治療を受けてからたくさん笑って、ご飯たくさん食べてます。ありがとうございます。』何よりも嬉しく感じました。今、私は矯正専門医の下田哲也院長(12期)のもと舌側矯正やマウスピース矯正治療を勉強させてもらっています。今後も、福岡歯科大学で得たものを活かして、矯正歯科治療をまっとうして行くつもりです。

本稿をもちまして、石川博之教授はじめ矯正歯科学分野の皆さん、サッカー部、佐賀県人会、グリークラブの皆さん、福岡歯科大学関係各位の皆様方に、本当に感謝申し上げます。



症例ミーティング